

### 子どもの本だな 119

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

#### ぼくじょうのくまさん

フィービとジョン・ウォージントン さく・え  
まさき りこ やく (童話館出版)

牧場で暮らすくまさんの1日は、牛の乳搾りから始まります。牛たちにエサをやり、それから腰かけに座って牛乳を搾ります。朝ごはんが終わると、にわとりや子豚、子牛たちの世話をします。仕事は他にも沢山あります。牛を買いに市へ出かけ、干し草を作り、卵とバターを牧場の仕事場で売ります。暗くなってくると、牧場の動物たちがキツネに襲われないよう、小屋に入れます。ようやく仕事を終えたくまさんは、お風呂に入り、ココアを飲みながら絵本を読むと、ベッドでぐっすり眠りました。

牧場で働くくまさんの日常が、淡い色合いの絵と素朴な文章で描かれています。くまさんと一緒に、忙しくも穏やかな牧場での1日を体験できます。読んでもらえれば3歳くらいから楽しめます。(光藤)

#### エーミルはいたずらっ子

アストリッド・リンドグリーン 作  
石井 登志子 訳 (岩波書店)

5歳の男の子エーミルは、鉢の中に頭をつっこんで、ほんのちょっぴり残ったスープをすすりました。ところが、頭が鉢にすっぽりはまりこみ、どうしても抜けません。診療所へ連れていかれ、先生にあいさつをしようと深く頭を下げたとたん、ガシャーン！。鉢は机の角にぶつかり、まっぶたつに割れました。お父さんが鉢をきれいに直した直後、エーミルはどうやって鉢に頭を入れたのかを妹に見せ、またもや…。(「エーミルがスープ鉢に頭をつっこんだ日」)

診療所からの帰り道、5オーレ玉を飲み込んでしまい、また引き返したり…とエーミルが次々と引き起こす騒動にハラハラさせられますが、ユーモアたっぷりに描かれたお話は愉快です。他に、妹を旗立て柱に宙ぶらりんにする話など、全部で3編が収められています。続編に『エーミルとクリスマスのごちそう』『エーミルの大すきな友だち』があります。読んでもらえば5～6歳くらいから。(盛岡)

#### 10月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
<del>1</del>	<del>2</del>	<del>3</del>	4	5	6	7
8	9	<del>10</del>	<del>11</del>	12	13	14
15	16	<del>17</del>	18	19	20	21
22	23	<del>24</del>	25	26	27	28
29	30	<del>31</del>				

#### 11月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	<del>6</del>	<del>7</del>	8	9	10	11
12	13	<del>14</del>	15	16	17	18
19	20	<del>21</del>	22	23	<del>24</del>	25
26	27	<del>28</del>	29	<del>30</del>		

#### < お知らせ >

#### ちいちゃい秋まつり

子ども向けに、手作りの小さなおまつり「ちいちゃい秋まつり」をひらきます。釣りあそび、輪投げ、おみくじなど、いろんなゲームを楽しめます。お気軽においでください。

◎開催日：10月22日(日)

※雨天時は29日(日)に延期

◎時間：10:30～12:00

◎場所：図書館南側テラス

※申込みは不要です。

- ▶ ×印は休館日 ※閉館時は返却ポストをご利用ください。(10/2～3は特別館内整理、10/11、11/6、11/24は祝日の振替、11/30は館内整理日)
- ▶ 開館時間は10:00～18:00、金曜日は20:00まで開館



『悩んでもがいて、作家になった彼女たち』 イタリア人が語る日本の近現代文学 『イザベラ・ディオニシオ 著

淡交社 271頁 2023年9月刊 1,600円 (請求記号)910.2

2020年、新型コロナウイルスの流行で誰もが先行きに不安を感じ、イタリア人の日本文学教授が、SNSに与謝野晶子の評論「感冒の床から」を掲載した。内容は、第一次世界大戦中に欧州から全世界に広まったスペイン風邪に対する日本政府と社会的施設の対応への批判である。それが話題を集め、ニュースサイトなどにも転載された。日本の新聞社にも取り上げられ、晶子の先見の明が絶賛された。晶子は大阪の堺で生まれ、男子を望む家族により生後すぐ里子に出された。その後実家に戻ったが、両親と打ち解けることはなかったという。晶子の心を慰めたものは「文学」だった。短歌に興味を持ち、家業を手伝う傍ら、地元雑誌に作品を投稿したり歌会に参加したりするようになる。注目を浴びるようになった。そんな時、晶子は雑誌「明星」の創刊者である与謝野鉄幹と出会い、恋に落ちる。当時、鉄幹は妻帯者であった。情熱的な恋を詠んだ歌集『みだれ髪』は、若者に支持され飛ぶように売れたが、女性が内面を語る事が許されなかった時代、世間の評価は厳しいものだった。晶子は22歳の時、家を飛び出して上京し鉄幹と結婚したが、その結婚生活は必ずしも順調ではなかった。しかし、それらの経験も文学に昇華した。晶子は、鉄幹と12人の子どもを養うために精力的に働いた。歌集はもちろん、仕事は何でも引き受けた。その傍ら、女性解放運動にも積極的に参加した。晶子は、明治という時代にあっても愛と意志を貫き通した女性なのである。

本書に挙げられている10人の作家たちは、それぞれの時代にあつて、自立し、ときに挫折しながらも生き抜いた女性たちである。時代の窮屈な常識からはみ出すほどの勇氣と行動力を持ち、作品を通して社会を映し出しながら、自分らしく生きた女性ばかりだ。彼女たちの強い個性と人生には、今を生きる人たちへのメッセージが隠されているはずだ。

著者はイタリア生まれ。大学で日本語を学ぶうちに日本文学に魅了され来日し、現在も日本語翻訳者として活躍している。彼女が語る文豪や古典文学には鋭い指摘と、愛が溢れている。他の著作『女を書けない文豪たち』『平安女子はみんな必死で恋してた』も、ぜひ合わせて読んでほしい。

(八木)

10月	11月	10・11月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
12日	9日			<b>福地(三反長)</b> 地域内 14:30~ 14:50	<b>米田</b> 公会堂 15:00~ 15:20	<b>竹広南</b> 公民館 15:30~ 15:50
19日	16日			<b>原池団地</b> 公民館 15:00~ 15:20	<b>山田</b> 掲示板前 15:30~ 15:50	<b>原</b> 太田東地区 農村交流 センター 16:00~16:20
26日	23日	<b>広坂</b> 公民館 10:30~ 10:50	<b>上太田</b> 公民館 11:00~ 11:20	<b>塚森</b> 地域内 15:00~ 15:20	<b>太子 ニュータウン</b> 公民館 15:30~ 15:50	<b>吉福</b> 公民館 16:00~ 16:20

< お知らせ >

青空リサイクル~ひと箱市~

読まなくなった本を持ち寄って、古本市を開きます。個人提供なので、どんな本が集まるかお楽しみに!

◎開催日:10月15日(日) ※雨天中止

◎時間:10:00~14:00

(本がなくなり次第終了)

◎場所:「ふるさと文化村」中庭

※本はすべて無料です。

※本を出したい方は、事前申込が必要です。詳しくは、太子町立図書館まで。

地下水

毎月発行している館報「書窓」には、本の紹介文とお知らせなどを載せている。9月号で紹介した『ヒエログリフを解け』(東京創元社)を読んだ利用者のSさんから「最初はちよつと眠たくなつたけど、2人が出てきてからは一気やつたわ!」との感想をもらった。読み応えがある本で、紹介文も長文になってしまったのだが、紹介したかいがあつた。7月号の『種をあやす』(亜紀書房)も「この本が借りたのですが」と聞かれた本だ。あいにく貸出中でその旨を伝えると「じゃあ、こつちのこつちの本を」と『りこうなおきさき』(岩波書店)を借りられた。毎号、職員ががんばって紹介文を書いているので、反応があると嬉しい。子どもの本の紹介欄には、基本的には長く読み継がれている本を選ぶのだが、8月号の『ダーウィンのドラゴン』(小学館)は新刊である。私が気に入ってぜひ紹介したいと思つた物語で、職員も次々に読んだ。私と同じく動物好きのMさんは「最後、泣きました!」。今のところ身内で盛り上がりつつある感否めないのだが、図書館に来る子どもたちの、誰に薦めようかと機会をうかがっているところである。

(池田)